

第645号



喬木村公民館：長野県下伊那郡喬木村6664



発行日 2022年12月16日
発行責任者 喬木村公民館長 市瀬 徹
編集責任者 公民館編集部 仲田 久志
印刷 龍共印刷株式会社

11月1日(火)~11月6日(日)
令和4年度 喬木村公民館
文化展示ウィーク

作品展示

今回は、37の団体・個人の皆さんにご参加いただきました。福祉センターを展示の主会場に、みんなの広場アスポ、歴史民俗資料館、椋鳩十記念館・記念図書館で展示を行いました。参加いただいた皆さん、ありがとうございます！



先月号で寄稿いただいた、郭分館さんの水引作品、素敵でした！

子どもたちの作品がズラリと並びました！みんな力作です。



今回は飯田養護学校寄宿舎の皆さんも参加くださいました！



今年の資料館は「喬木のお城展」お城の事がよく分かる～！！

例年喬木村総合文化祭で行っていた出展・出演の場が、今年度より公民館主催の「文化展示ウィーク」に変わりました！今回は、福祉センターを主会場とした四ヶ所で、十一月一日～六日の計六日間、作品展示・PR動画の放映を行いました。

土日には、展示会場に子ども学遊館を加えた五ヶ所を巡るスタンプラリーも実施。作品展示を見ながら、日頃行く機会の少ない各施設の良さを知って貰えるよう工夫しました。

来られた皆さんには、村でも活躍する皆さんを知るきっかけになっていただけました。参加・協力いただいた皆さん、本当にありがとうございます。公民館は、「元気に楽しく」皆さんと活動を進めていきたいと思っております！

スタンプラリー

今年は子ども学遊館でもスタンプラリーを実施しました。みんなの広場アスポでのイベントもあり、小さいお子さんにも楽しんでいただけました。



子どもだけでなく、大人もミニゲームを楽しみました！



学遊館でミニゲームに挑戦！

フライングディスクに挑戦！うまく入るかな？



みんなの広場アスポ



マヤの一生のおもしろさ

椋鳩十記念館・記念図書館長 菅沼利光

「マヤの一生」は、昭和四十五年、椋六十五歳のとき、大日本図書「子ども図書館シリーズ」の一冊として刊行された書下ろしの作品です。

「マヤは、ほんとに、りこうな犬でした。」で始まるこの作品は、「わたくし」といって語り手が、静かに語る「熊野犬マヤ」の物語であり、椋の動物に寄せる愛情と観察の確かさが、読者の心にぐいぐいと入り込んでくる作品でもあります。

前半部は、マヤ、ネコのベル、ニワトリのピピ、そして、「わたくし」の家族、特に次男とマヤのほのぼのとした日常が語られます。この前半部があるからこそ、戦争が烈しくなった時の、人々の異常さが際立ってくるのです。

町の人々を集めて、「貧しさに耐えることができない者は、非国民だ。」と演説する町のえらい人たちが、この人たちの一人である年取った陸軍将校の家からは、スキヤキの匂いが漂ってきます。

また、「わたくし」の幼い子どもたちの目の前で、マヤの脳天に一撃をくらわし、殺そうとするお巡りさんや世話人、役場の人は、「ずっとまえから、あの、おまわりさんも、役場の人も、部落の世話役の人も知っていました。悪い人たちではありませんでした。どちらかという、ひとのよい人たちでした。

けれど、こういう時代になると、人びとは、知らず知らずのうちに、荒あらしの心の持ちぬしになってしまふのかもしれないと、「わたくし」が語る人たちは、

かを、告発した物語です。そして、マヤに仮託された、戦争の中にあっても、愛する者を信じ、消えようとする命の火をかき立てて、愛する者の元に戻るマヤの姿

は、どんな時代になっても変わることはない「真実の姿」なのだ、という椋の強い思いが、読者の心に沁み入る作品です。

かを、告発した物語です。そして、マヤに仮託された、戦争の中にあっても、愛する者を信じ、消えようとする命の火をかき立てて、愛する者の元に戻るマヤの姿

は、どんな時代になっても変わることはない「真実の姿」なのだ、という椋の強い思いが、読者の心に沁み入る作品です。



活動PR動画 様々なジャンルで活動される皆さんの映像に、つつい見入ってしまいます！



あの時

四年に一度開催されるWカップから開催されている日本代表は決勝トーナメント一回戦でクロアチアにPK負け、目標としていたベスト8進出はならなかった。しかし、予選リーグでは優勝経験国、ドイツとスペインに逆転勝ちし、大方の予想を覆して予選リーグを一位で決勝トーナメントに進出した。日本代表は強くなっていると思う。メッシやロナウド、ネイマールのような傑出したスター選手はいないが、選手層の厚さは欧米や南米の強豪国にも引けをとらない。サッカーは番狂わせが起こりやすいスポーツだ。格上のドイツ、スペインに会心のゲームで勝利しながら、格下のコスタリカには不覚をとった。私はコスタリカ戦を観ていて、試合開始十分で一負けるかもしれない！と思った。ドイツ戦とは違い、日本がボールを保持している時間は長いのだが、勝負のパスやドリブルがほとんどないのだ。ボールを失うリスクを冒してでも相手の背後を突かなければ得点は生まれにくい。コスタリカ戦の日本はボール保持とチャレンジのバランスが悪く、ゲームをコントロールしながら試合をもつにできない負のスパイラルに陥っていると私には見えた。

第35回 椋鳩十夕やけ祭

第35回 椋鳩十夕やけ祭の報告

椋鳩十記念館・記念図書館長 菅 沼 利 光

今年、椋鳩十賞読書感想文コンクールが始まって、三十五回という節目の年です。この節目の年を記念して、高校生や大学生、成人の皆さんにも椋文学に親しみ、椋文学から学んでほしいと願い、「一般の部」を再開いたしました。今年、県内外から五百六十一名の応募があり、昨年度より、百三十点ほどの増加がみられました。コロナ禍は続いていますが、各校の先生方や保護者の皆様、そして、椋鳩十を愛する皆さんの力強いご協力により、個人での応募や学級での応募が増えています。

今年度より再開した「一般の部」には、十一名の応募がありました。過去に行っていた「一般の部」の応募に比べ、若干の増加がみられますが、中断の期間も長く、認知度が低いように思います。さらに多くの応募をいただけるよう、広報等を工夫してまいります。表彰式では、「椋鳩十賞」を受賞した坂口紗季さん（飯田市立伊賀良小五年）、大塚響子さん（小諸市立芦原中三年）、武井李奈さん（阿智村）に、感想文を発表していただきました。

恒例の記念講演会では、「絵本ができるまで」と題して、絵本作家あべ弘士先生にご講演いただきました。あべ先生は、旭山動物園に二十五年間勤められました。今では、大人気の旭山動物園ですが、当時の旭山動物園は、飼育員八人、獣医二人、冬期間の六カ月間

は閉園する、あまり人気のない動物園だったそうです。動物園の飼育員になって、最初に世話するのは、値段の安い、逃げてもいい、ヤギやハト、カモのような動物だそうです。サルは飼育係をした時、「サルと目を合わせるな。特にオスのサルの眼力には人間はかなわない」と先輩に注意されたそうですが、眼力で負け、「サルの前では転ぶな」と言われていたのに、転んでしまったその日から、立場が逆転して、サルたちは、あべ先生の言うことを聞かなくなったそうです。

三匹のニシキヘビの飼育係のエピソード。ニシキヘビは生餌を食べるので、どの動物園でも、園の裏側にエサ用のウサギを飼っているそうです。毎日、エサ用のウサギをニシキヘビの部屋に入れるのですが、ニシキヘビは見向きもしません。ウサギはニシキヘビの部屋の中で寝ている。こんなことが六ヶ月も続いたある日、ようやくウサギを食べた。その時、六ヶ月間していなかったウンコをニシキヘビがした。どんな動物でも、食べないとウンコしないことに、この時初めて気づいたそうです。

その他、ネズミがカメラの餌を食べていたこと、気が付かず、カメラが死んでしまったこと。その直後に旭川市の監査があり、あわてて対応したこと。自然の中で、シマウマを食べるワニの回転動作のこと。フクロウやインドガルが動物舎から逃亡した時のこと。カバ舎のプールの水がきれいなのは何故か等々。面白いエピソードに、にっこりしたり、笑いが出たり、うなずいたり、不思議だなあと思ったり。

こんなエピソードの後、北極を旅した時に、母白クマと二頭の子どもたちを観察し、その日の内にラフスケッチを書き上げ、そのラフスケッチが、「ふたごの白くま」という絵本になるまでの過程を、ラフスケッチと絵本を比べながら教えていただきました。

また、「大造じいさんとガン」の絵本の絵を描くときは、「大造じいさんとガン」を熟読し、「椋鳩十は、ガンをどこで見たのか」と思ったそうです。この物語に出てくるガンはマガン。鹿兒島では、マガンは絶対に見られないそうです。

確かな取材と観察眼に裏打ちされ、そこに、想像と愛情のエッセンスを加えて絵本作りをしている、あべ先生。あべ先生の絵本の中で、動物たちが生き生きと動き回っている秘密の一端を、知ることができた講演会でした。



市瀬村長、長戸信毎飯田支社長と一緒に記念撮影

令和4年度

「第35回 椋鳩十賞読書感想文コンクール」入賞者一覧

◎椋鳩十賞

部門	氏名	学校名・学年	感想文タイトル
小2年	西 由倫夏	奈良学園小学校	友じょうが生んだ勇氣
小4年	小須田陽香	飯田市立伊賀良小学校	強い心を持って
小5年	坂口 紗季	飯田市立伊賀良小学校	「アルプスの猛犬」を読んで
中3年	大塚 響子	小諸市立芦原中学校	大切なこと
一般	武井 李奈	阿智村	心に灯をともしること

◎優秀賞

部門	氏名	学校名・学年	感想文タイトル
小2年	中村 緒仁	千曲市立五加小学校	大切な友だち
小4年	本間 千晴	飯田市立丸山小学校	あきらめない片足すずめ
小5年	松島 杏佳	喬木村立喬木第一小学校	固い絆が成し遂げたこと
中3年	岩佐 天花	長野市立櫻ヶ岡中学校	椋鳩十が描いた未来
一般	山口 真一	長野市	感動は時空を超える

椋鳩十賞読書感想文コンクール第35回の節目の年を記念し、5年間休止していた「一般の部」を再開いたしました。

私は、クラスの友だちが本当にこまったときにすぐたすけに行くことが、できるでしょうか。じつは、だれかがこまってたすけてほしい、と思っているなんてあまり考えたこともありませんでした。

このお話は、りょうしの三吉さんと二羽のきものお話です。三吉さんは、かもとをとりたくて、ふねで海へ行ったり、かものえさばで長いあいだ動かずにじっとまって、いっしょうけんめいがんばっていました。一方のかもはさしいしは仲間がうたれてしまいました。うたれたらさくなくたって、用心ぶかくかんたんに

はつがをしたかもを大好きだったんじゃないかと思いたら何か力になってあげたいという気もちは分かります。でもこのばいんではたすけに行ったら自分もうたれてしまうけんがとでも大きいです。それでもたすけに行つたということ、は、けがをしたかものことをとても大切に思っていたからその勇氣もてたんだと思います。

もし、大じな友だちがいやな目やあぶない目にあつていたらこれからはたすけに行きます。友だちがいたい思いをしたりいなくなつてしまったらかなしいし、学校も行きたくなくなると思います。三吉さんかもの友だちを思う気もちに心が動かされて、二羽ともつかまえることはしませんでした。二羽が元気にくらしていいほしいです。

椋鳩十賞 (小学校1・2年の部)

友じょうが生んだ勇氣

「カモの友情」 小峰書店
奈良学園小学校 二年 西 由倫夏



あべ弘士さんによる記念講演会

11月27日(日) 開催 ふるさとづくりフォーラム

〈主催〉 喬木村公民館 〈共催〉 喬木村社会福祉協議会
「SDGsを知ろう！考えよう！取り組もう！」

第一部 講演会

「SDGsを知ろう」

講師：元持 幸子 さん

今回は、長野県社会福祉協議会の元持幸子さんをお招きし、SDGsについてクイズを交えながらお話していただきました。

よく耳にするSDGsですが、「貧困」というテーマで考えても、世界各地で状況は異なり、世界には今日食べる物にも苦慮し、一



講演会の様子

すが、「貧困」というテーマで考えても、世界各地で状況は異なり、世界には今日食べる物にも苦慮し、一

日二百円以下で生活している人がいる一方で、日本では一年間で一人あたり40kgの食品ロスをしていることでした。その食品ロスがうまく回っていかば、どのくらいの方が助かるのか。自分たちがどのような行動をすれば世界中の人達の平和につながるのかなど、具体的な数字を示して教えていただきました。

参加された多くの方がより身近な話題として考えることができたのではないかと思います。

第二部 活動発表

講演後の活動発表では、四つの活動について発表していただきました。当初は二つの分科会に分かれてグループワークを計画していましたが、感染対策のため、活動発表に変更しました。

「環境」セツケンづくりの会の賜さんと、役場の協働・共創によるSDGs推進プロジェクト環境班の皆さんにお話いただきました。

せつけんづくりの会の皆さんは、村内の家庭から出される廃油を活用した石鹸づくりを長年されてい



リユースイベントの様子

さん、村内の家庭から出される廃油を活用した石鹸づくりを長年されてい

また、役場SDGs推進プロジェクトの皆さんは、リユースイベント等、村内の皆さんと一緒に環境分野でのSDGsの推進を目指しているとのことでした。



小川さんの活動発表

「子どもの平和・貧困・平等」不登校の生徒さんたちの居場所づくりを行っている小川俊明さんと、子ども教室と読み聞かせの会で活動している塩澤真由美さんにお話いただきました。

子ども達を取り巻く環境は変化しつつありますが、子どもたちが安心して遊べる、学べる場、そして誰もが自由になれる場を作っていく事の大切さについてお話いただきました。環境は違っても、すべての子ども達に学びの機会を平等に提供していくことがSDGsに繋がっている事がわかりました。

喬木俳句会 霜月句会詠草

友の汗染みる大きな林檎かな
影に入るその一瞬や赤き月

矢澤恵美子

歌うやうに鎌軽やかに小春空
冬もみじ色を織りなす風のうた

松島みのり

今年また着るセーターや叔母手編み
青空や母と来し里冬紅葉

宮島 高枝

大銀杏歴史尋ふ庭黄金色
夢たくし夫と二人で柿のれん

村山たか子

小春日や傍らに母居るやうな
陽は落ちて庭の紅葉に眉の月

原 美恵子

行く秋やふるさとの川潺々と
背より迫る寒さや老いの日々

西元くにこ

秋深し電子辞書より鳥を観る
紅葉山日向も影も柔らかし

市橋 ヨリ

ランドセル弾む石橋蕙紅葉
晩鐘の遠き砦や山眠る

松葉 孝子

俳句歴七十余年冬ぬくし
「九条」は生きる希望や冬紅葉

吉川てる子

令和四年度 村民マレットゴルフ大会開催

十一月十三日(日)、大原机山公園マレットゴルフ場を会場に、公民館主催の村民マレットゴルフ大会が開催されました。

本大会は、消毒及びマスク着用など新型コロナウイルス感染症対策を実施したうえで開催しました。当日は二十六名の方が参加し、三名×四名ごとの組で十八ホールをそれぞれ周りました。

当日は雨が心配されましたが、開催できました。初めての方も含め、多くの方がマレットゴルフを楽しむことができました。

ご参加いただいた方は大変お疲れ様でした。また大原机山公園マレットゴルフクラブの皆様には大会運営にご協力いただきました。ありがとうございました。

結果は次の通りです。

<村民マレットゴルフ大会結果(敬称略)>

【男子の部】		【女子の部】	
1位	小椋登志敬	1位	小池 光子
2位	松澤 澄登	2位	松澤 節子
3位	山崎 英雄	3位	松澤 茂子
4位	笠野 高登	4位	矢澤 好美
5位	木下 昭文	5位	木下 美穂
6位	桐生 英人		
7位	田切 芳郎		
8位	宮下 淑実		
9位	林 弘綱		
10位	佐藤 守弘		

※参加者数26名(経験者男子(クラブ所属者)13名、経験者女子10名、一般男子3名)
※全18ホール、パー72。同スコアの場合は、年齢順で決定。



26名の方がマレットゴルフを楽しみました

編集後記

コロナで暗いニュースが多い中、サッカーワールドカップで日本チームが明るいニュースを運んできてくれた。優勝候補のドイツ、スペインを破り、1次リーグを1位突破となり、朝早くから日本中がどよめいた。残念ながらクロアチアには延長戦までいって負けてしまったが、8強の景色は四年後を楽しみにしている。サッカーに興味のなかった私も選手達の移籍先やら気になって仕方がない。本当に日本はすごかった！小さな字で書きます。

ブラボー！！

SDGsの基本や、村内で活動されている皆さんを知ってもらおうことができ、自分の取り組みだけでなく、「地域」でできる取り組みについて考えていただけただけではないでしょうか。

SDGsを推進することは、「誰一人取り残さない地域づくり」にも繋がっていくのだと思います。

このふるさとづくりフォーラムは、村づくりを考えることを目的に始まりました。今回のふるさとづくりフォーラムが、参加者をはじめ村民の皆さんの新たな村づくりに繋がっていくことを願っています。

参加いただいた皆さんからの感想

- 一人一人がよく考え、小さな事でもあきらめず続けて行く事が、将来に繋がっていくことだと思います。始めは難しいと思いましたが、わかりやすいお話で、何か一つでも目標を決めてやってみようと思いました。
- 喬木村でいろんな活動が行われているのだとわかりました。漠然とした単語としてしか「SDGs」を捉えられていませんでしたが、何となく形として理解できて良かったです。
- 一人一人が今すぐできることを、どんな簡単なことでもすぐに実行することが大切だと思いました。
- 誰でも、いつでも自由にのびのびできる居場所作りが出来ればいいです。あとは、個人でできること「節電・ゴミの削減・リサイクル・食品ロスをなくす」を頑張ります！結果、それが家計のためにもなります。
- 家族でSDGsについて話すことも大切だと思いました。
- SDGsに取り組むにあたっては「家庭」の役割が大きいと思っていますので、今後「取り組む姿」を、子・孫などに見せたいと思いました。
- 一人ではなく、皆で知る、考える、行動することが大切だと思いました。